

唐津市街と名護屋城址見学

「みよし会」は恒例の宿泊研修会を今年は10月28(土)、29日(日)の2日間、佐賀県唐津市を訪ね、唐津、呼子の歴史と名護屋城の全貌を学びました。台風22号接近の予報の中、2日ともあいにくの雨模様でしたが、主だった場所では傘なしで歩けるという恵まれた天候でした。

<参加者> (順不同、敬称略)

池田慶子、今井由子、樺澤敬視、齋藤泰英、高城泰男、永吉和幸、畑美根子

■28日は午前8:14 JR小倉駅発の快速電車に参加者それぞれが最寄りの駅で乗って合流、博多駅から地下鉄筑肥線に乗り換えて唐津駅で下車しました。



唐津市内観光の最初は、辰野金吾の設計監修によって明治45年に建てられた「旧唐津銀行本店」。最終的には平成9年まで佐賀銀行唐津支店として使われたレトロ建築です。元は歯科医院だった建物をリノベーションしたというカフェで昼ご飯のあと、人形の侍さんが太鼓を叩いて時刻を知らせるからくり式の「時の太鼓櫓」で「午後1時」を目と耳で楽しみました。

杵島炭鉱など佐賀県内の炭鉱で大

富豪となった高取伊好が建てた豪邸「旧高取邸」では巧みな案内人の解説で素晴らしい邸宅を見学しました。また、有名な唐津くんちの博物館「曳山展示場」では14基の勇壮な曳山の実物を見て、祭りの歴史を学びました。

夜は呼子大橋のたもとの「旅宿よぶこ」に宿泊してイカしゅうまいなどを堪能しました。



■29日はホテルのマイクロバスで呼子名物の「朝市」に案内してもらい、海の幸・山の幸の市場を見学しました。台風接近のため出店は普段の半分以下ということでは



したが雰囲気は楽しめました。そのあとは今回旅行のメイン「名護屋城博物館」へ。約2時間かけて「文禄慶長の役」や当時の名護屋城の賑わいを勉強し、最後には本丸跡まで登り、高台から玄界灘を眺め、当時を偲びました。

